

日本大学工学部

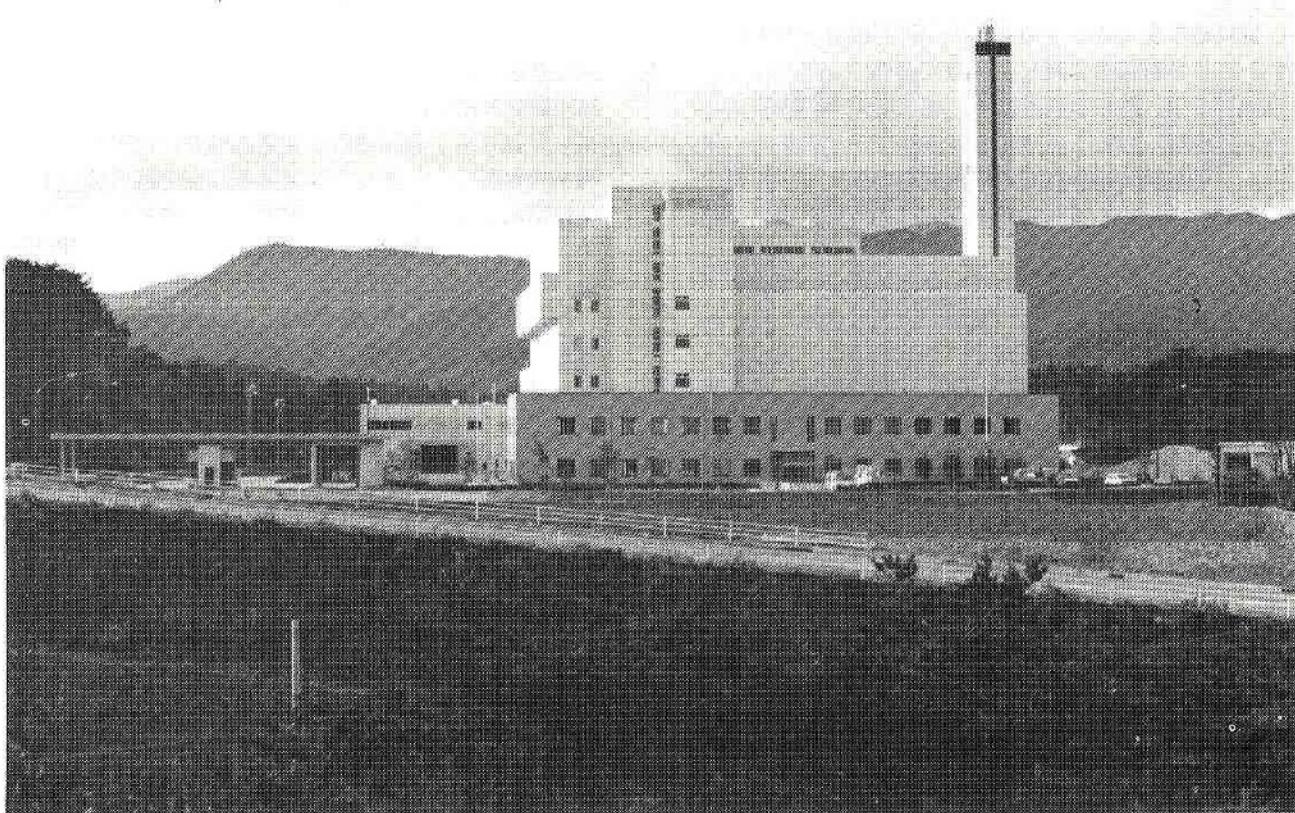
# 校友会報

第 43 号

昭和59年3月1日

## 目 次

ごあいさつ(学部長、会長).....	2
創業に立合って.....	3～5
母校を訪ねる会・校友短信.....	6～7
同窓会だより.....	8～9
英國の夏と若者たち.....	10
牛ヤンバスミニメモ.....	11
総会通知・事務局だより.....	12



### 郡山市河内清掃センター

(郡山市逢瀬町河内字西午勞沢59)

本格的操業 59年3月

敷地 約63,000m<sup>2</sup> 工場棟(地下2階地上7階)11,000m<sup>2</sup>

管理棟 1,500m<sup>2</sup>

工費 約81億円

焼却炉 150トン1口(処理能力) 2基

余熱からの発電 1,000K W/H

統橋忠良(土木7回卒、郡山市役所清掃施設建設室  
主幹)

### 昭和59年度総会

59年4月28日(土) 午後2時より  
日本大学郡山研修会館にて開催

詳細は12ページ参照



## ごあいさつ

日本大学工学部長  
廣川友雄

昭和58年度も1,000名余の諸君が卒業し、新たに校友の仲間入りをします。これら卒業生の諸君には卒業のお慶びを申し述べると共に、先輩の諸君には新たな仲間に對し、その成長を見守り或は手助けもして頂き度く願う次第です。

さて、先づ工学部における近況を述べましょう。

何を置いても、卒業後この技術革新の激しい21世紀にかけての時代を働きぬく学生諸君に対し、最も適切と思える指導を行うことが大切であることは論を俟ちません。

昭和59年度からはそのための学科改訂が行われます。これは新入生に対して行われるので2年以上は従来通りです。然し学科はそのままでもその内容は、改訂の趣旨に沿っていることは当然です。先生方の研究も、年を経るにつれその積み重ねが大きくふくれ上ると共に、新しく優秀な教授陣の拡充も各科それぞれに行なわれています。

昨年北桜祭に際して「母校を訪ねる会」に参加して来学された方達は、学部の環境が大きく変様したこと、驚きと懶もしさを感じていられたようであるが、昭和54年に校舎群の南東部に建った実験棟8・9・10号棟は従来2階建であったのであるが、当初の予定通りこれらを3階とし、これを以て実験室はほぼ充足されたのであります。設備も毎年新設されているが、それに伴って次々に新しい研究成果が報告され、蓄積されています。このことは、大学として当然とは云えるが、これは学部の宝物とも云えるものであって、やがてこれは教育にも大きくはねかえってくるのであります。

なお、本年、福島県では郡山市を母都市として、2市3町1村を包括した地域に対しテクノポリス指定を申請することになっています。母都市郡山に我が工学部があることが、指定を受けるための条件となっているので、指定が決定すれば自ら高度技術の研究開発面において、参加することも予想され、本学部の社会的信頼度も高まって来るものと考えられます。

今後、各クラブのOB会、或は「母校を訪ねる会」などに参加される場合、お会い出来ることを楽しみにしております。

(日本大学教授、工学部校友会顧問)



## 子年(ねどし)に想う

日本大学工学部校友会長  
武田仁幸

校友諸兄には御健勝のことお慶び申しあげます。

輝しい期待のもとに昭和59年を迎えたこと存じます。今年の干支(エト)は子(ネズミ)であり、子は12支の初年で、動物学的にも大変な子宝で生活力の旺盛な生物とされ、我々人間には病いや食物に害をあたえておりますが、社会生活においてはペットとして、また、医学上の研究実験用には欠かすことの出来ない動物です。

この前の子歳は昭和47年であり、高度成長のピーク期。また、その前の昭和35年は池田内閣が所得倍増論をかけスタートした年でもあります。古来、子歳は五穀豊饒、国家繁栄の年まわりとされております。58年下期より景気回復も上向き兆しであり、特に本年はエレクトロニクス関連の企業は上向きと予想されます。個々の企業にとりましては業績を左右する「決め手」は技術競争力、事業展開力等であると考えられますので、我々校友技術者は一致協力、創意工夫のもとに研鑽し、努力していただきたいと思う次第です。

新しい年を迎えますといつも思うのですが、日本人ほど国旗を大切にしなくなった国民はいないと思います。また、国歌“君が代”を知らない子供が多いことが残念でなりません。先輩校友の中にも孫がおありの方々も多いかと存じますがいかがでしょうか。過日、私が仲人をしました方が子供を連れ、新年の挨拶に参りました。その時、小学1年の子供が“オジチャンとこは愛国党なの”と聞くのです。“どうして”と言うと“だって日の丸がたっているもの、これには一同大笑いをしました。ついでに“ぼくは日本の国歌、國のうた「君が代」知ってる？”と聞くと知らないという。こう言うお歌よと口ずさんでやると、“あ、それお相撲さんの歌だ”これには参りました。国旗は右翼の愛国党であり、国歌がお相撲さんの歌。現在の子供達は皆そう思っているのでしょうか。

国旗は国家を代表し国を象徴し、祝祭日には掲揚するもので、国歌は国を象徴するものとして制定し式典などに演奏するものです。国旗も国歌も元來國威の発揚、愛国心の高揚にあり独立国家の一員であるならば祖国に対する愛国心、忠誠心を養成する教育は当然施さるべきです。次代を担う青少年に誤れる教育をすることなく、各々の家庭において、国旗を掲げ国歌を唱い、日本人であり、日本国民としての義務感、責任感、連帯感を自覚させる教育を行い、人間性溢る健全な精神を持つ青少年を育成する事を望むものです。

(土木工学科3回卒、東和工業㈱)

# 創業に立合って

株日ビス福島製造所

取締役 佐久間 正二



## ○はじめに

私の勤務している、日本ピストンリング㈱の100%の関連小会社である株日ビス福島製造所が、福島県伊達郡川俣町に落成し、松平勇雄福島県知事殿、渡辺弥七川俣町長殿等々沢山の来客のもとに、開所式が行なわれたのは昭和57年5月19日であった。私は昭和56年の9月、日本ピストンリング㈱内に出来た、株日ビス福島製造所建設準備室の一員となり、創業に立ち合うことになった。長い会社生活に於いても、このような機会に恵まれることは極めて少なく、私にとっても良い経験であると思っています。そして一部の建物が完成した昭和57年4月より福島に出向し、現在に至っております。

## ○川俣寸評

時も同じく昭和57年6月より東北新幹線が開通し、今では東北新幹線で大宮から「やまびこ」号で郡山まで1時間11分、福島まで1時間30分で来ることが出来るようになった。福島に降り立つと西の方に、吾妻、安達太良連峰、とりわけ姿の美しい吾妻小富士を望むことが出来る。従来の特急の半分の時間で到着出来るのであるから随分スピード・アップしたことになる。私の大学時代とは隔世の感である。

福島から東へ25キロ、阿武隈川に沿った国道114号を阿武隈山系に入ってバスで50分乗ると川俣町に着くことが出来ます。川俣町は、天領だった江戸時代から養蚕と糾織物の町として知られています。今も羽二重を織る産地として200軒近い機屋が仕事を続けています。白壁の土蔵を見るに付けて古くから開けた町の印象である。

## ○創業まで

当社〔(株)日ビス福島製造所〕は、農村地域工業導入促進法および工業再配置促進法の制定により、福島県および川俣町の強力な誘致要請を受け、昭和48年に福島地方土地開発公社および川俣町当局の仲介により土地買収、造成を行なってきましたが、第一次オイルショックによる経済事情の変化により工場建設を中止しておりました。

昭和55年、親会社〔日本ピストンリング(株)〕に新社長をお迎えすると同時に、親会社の中期経営基本方針が打ち出され、それに基づく基本計画を完遂する

ためには、工場再配置を考えないわけには行かなくなってきた。

即ち今後の生産活動を考慮した時に、都市化の進んだ“キュー・ボラの有る町”川口の工場擴張が出来ず、このままでは工場の狭隘化になってしまふ、又、電力が不足し、新設するには莫大な資金が必要であることや、工場の用地が住宅地、マンションが密集はじめ環境的にも考慮せざるを得なくなる事が来ると思われ、福島の創業に向け準備が進められた。

監督官庁および県のご指導、金融機関および川俣町当局の絶大なるご支援と地元の皆様のご理解とご期待のもとに、昭和56年10月第一期工事の起工式を挙行することが出来るはこびとなりました。

設計や工事関係協力企業の精力的な努力により第一期工事(主に事務棟、機械加工工場)は昭和57年3月末日に完成することが出来ました。引き続いで第二期工事(主に鋳造工場)に着手された。

同年4月より8ヶ月に亘り計画的に生産設備の搬入を開始した。一方では生産活動を続けながら、納入を遅延させることなく、機械加工設備は川口工場より移動し、整備、調整、テストラン、品質確認を繰り返し続けて来た。冒頭に紹介したように、同年5月19日には、福島県知事殿他多数の来賓をお迎えし、盛大に開所式を挙げ本格操業へ向け始動した。

川俣町は糸扁の不況以来年々人口の減少が続き現在では人口2万1千人弱になってしまった。川俣町の若年労働力が流出して行くのを防ぎたいとする県や町の切実な願いと男子型企業誘致という当局の期待に少しでも寄与したいと関係者は頑っている。川俣町民は老若男女朝早くから夜遅くまで皆さん大変な働き者です。新聞紙上では男子型企業と報道されておりますが、女子の職域も多く、沢山の人達に働いていただいております。

そして第二期工事(鋳造は全て最新設備を新設)の完成により58年1月竣工火入れ式を行ない鋳造工場も操業を開始しました。

## ○製品群

ここで日本ピストンリング(株)の製品群を紹介しておきましょう。社名にあるようにピストンリングを中心とした各種の製品を開発してきましたので、主なものを記しましょう。

ピストンリング………二輪車、乗用車、トラック、バス、船舶やコンプレッサ等

まで広範囲。

- シリンドライナ………同上。薄肉スリーブも有る。  
動弁機構部品……………バルブシート、ロッカーム、  
タヘット、カムシャフト等。  
船用部品……………ヒストン冷却装置、ヒストン  
スカート、弁座等々。  
コンプレッサ部品………シリンド、バルブフレート、  
ペーン、ローラ等。  
産業機器製品……………クラッチ類、シュミットカッ  
ブリング、真空ポンプ等。  
その他の部品……………フローティングシール、カバ  
ープレート等。

であります、当社で受け持つて生産しているものは、  
自動車用シリンドライナ、スリーブ、カムシャフト、  
バルブシートおよびロッカームチップ等々である。

#### ○経営理念

NPR（日本ピストンリング）グループとしては、  
「全社全員による体質改善」を旗印にしております。  
当社運営の経営理念として次のように掲げている。

1. 優れた品質で廉価な製品を顧客に提供し、信頼  
を保つ。
2. 働きがいのある職場を造り、人の和と連帯を強  
め、地域社会に貢献する。
3. 社員の創意工夫、実践を尊重し、常に自己啓発

に努める。

これを基本とし、これより品質保証方針や年度工場  
長方針などが導かれている。又、地域社会に対しては、  
社長の「夢は地元への恩返し」という新聞での談話を  
通してその意を汲んで欲しいと思います。

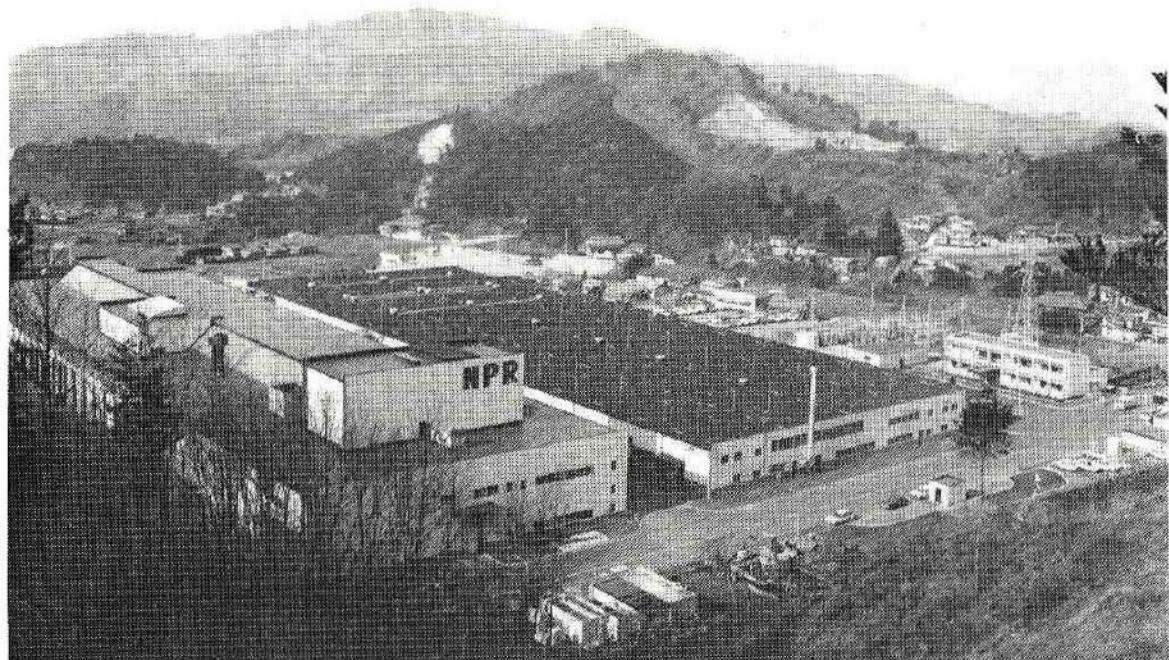
「町の皆さんも暖く迎えてくれましたし、協力もして  
いただきました。これからそのご恩返しを、本業の他でもいろいろやっていきたい。まだ、具体的に決つ  
たわけではありませんが、廃熱や余熱を有効利用して、  
高級野菜や椎茸の栽培についても、話が出ているところ  
ですし、将来的にはインダストリアル・パークとい  
いますか、工場の隣接地などに、総合グラウンドや温  
水プールなども作っていきたいと思っているんですよ」と  
と工場進出したことがそのまま恩返しへの夢となつて  
ふくらんでいく。

尚、当社の従業員も生産量の増加と共にふえ、出向  
者を含め、昭和57年5月開所式当時40人、第二期工  
事完成の火入れ式をした昭和58年1月には170人  
まで増え、現在は300人の従業員となった。将来第  
3期、第4期工事完成時には450人程度になる。

#### ○創業立上り

まだ吾妻おろしの寒風吹きやまぬ昭和57年3月下旬  
より、新工場検査、管理、設備移動のために10名出向  
して来た。事前の準備は行なっても問題点は出るもの  
である。設備設置毎に反省会を繰り返し続けてきたら

〔写真説明〕 日ビス福島製造所第1期2期完成状況



300件もの問題点が出て改善処置の対象となった。生産方法は従来進めて来た継流れを基本にしたラインである。従業員は地元より募集し出来るだけ親会社に派遣し、実地教育を受けさせて来た。古い人は昭和48年当社に入社し、親会社で10年も実績を積んだベテランもいる。彼等にとっては、いつ地元で働くのか、早く親や妻子のいる地元で働き度いと願いつつ、文字通りの苦節10年だった事でしょう。こちらに帰任する時の姿は本当にうれしい様子であった。最近入社する人はこちらで充分訓練を積み立派なオペレータとして働いている。当地の人達は本当にまじめで、こつこつ仕事を積み上げて行くので、将来が楽しみである。いくら立派な設備が入ってもそれを操作するのは人である。人の質の向上が云われるポイントである。

当社も順調に生産も増加して来ましたので、地元採用人員も多くなって来た。親会社から80人の出向者が日々実務の指導をしているが、地元採用は入社前までの社会経験にも千差万別があるので、導入教育、固有技術教育も計画的に実施している。これらの動機付けにより個人個人の能力が高められることを期待している。品質管理、QC サーフル、5S、原価低減、改善等々が中心になっている。正社員は勿論ですがパートのおばさんまで自主的に参加して熱のこもった内容になっている。

今日では工程変更は品質に重大な影響を与えるということで、お得意先には事前に申し出をしなければならない。従って工程変更時には社内でも一定のルールに従って製品の評価がなされ安定性も確認して、品質保証されなければ流出できないようになっている。お得意先ではこちらのラインの完成状況に合わせて、工程監査をなされ、製品及びそれを作り出す体制について御指導をいただき、製品テストの評価と考慮され生産開始の許可が得られる。各段階で幾多の評価をうけて市場に出ることになる。このような事が確実に行なわれているから良い車が出来るのではないかでしょうか。

#### ○合弁企業

昭和43年、私は初めてパスポートを使うことになった。中華民国台湾省に行くことになったからです。社会的な環境が有りまして、日ビスも台湾と合弁会社を作ったからです。当時は海外との合弁事業は前例のないことで、相手政府との手続きや現地業務の遅れなどから1年以上も延びのびになっていたのがやっと実現することになったのでした。当社からの出向メンバーは役員1人と我々技術指導員3名でした。私も若い頃でしたし、生活環境や社会的な環境、自然環境等の変化への適応などは少しも心配することはなかったが仕事が本当にうまく行くのだろうか、広範囲の業務のとりまとめや指導が出来るのだろうか、製品が出来るのだろうかという不安が大きかった。現在の福島工場

には国内ということもあって、生産技術、製造技術、製造現場、検査や品質保証、工務保全、生産管理等に充分指導出来るベテラン達が配置されているので心配はないが、台湾ではその他工場に関わることは数人で対応せねばならない立場にあったからです。

延びのびになつた期間を利用して、出来る限り工場の各セクションの体験を実習をさせていただいた。その事が大変有益だったし、今でも貴重な体験として生きています。製品設計の手順とか本型の作り方等々今は大変異なるけれどもレポートを見るにつき當時をなつかしく想い起こします。

全くの新しい会社だし、管理監督者も現地調達をしなければならない。従って階層毎に入社試験、面接をし入員の確保をした。

消耗品、原燃料、薬品や治具類の購入先の発掘。日本では不自由なく調達出来ることがなかなか手に入らない。品質が悪い、規格が不統一、近くにはない、安定供給が出来ない、日本から輸入しなければならないなどの問題があった。日本からの機械も現地の港でやっと通関出来た。私達が現地に着いた時には工場の屋根もまだなく、従業員も4名ほどであったが、この頃には採用された人も増え自分でレイアウトもし、機械の梱包材で作業台や踏台、運搬具を作った。設備の精度確認も済み具体的に作業を教えなければならない。若い従業員ばかりですから日本語は知らないし、私だって中国語は知らない。従ってまずは、やってみて、やらせてみて筆談で意味を確認し合いながら進める訳です。それで時に「解ったか」というと、ほとんどの人は「解った、解った」と答える。それじゃということでやらせてみるとほとんど理解していないのには思った。

しかし訓練に訓練を積んで、なんとか製品が出来るようになって来た。日本に比較すれば設備上の差もあって能率は低いが休まずに働いた。今では週休2日制という会社もあるが、当時台湾は隔週の日曜日のみ休みが一般的だった。2週間に1回の日曜である。我々日本人には大変こたえた。

初出荷の日が来た。きちんと包装され小型トラックに積まれ、車の出発時には爆竹を鳴らし皆んなで送り出した。使用者に喜ばれるようにと衷心より祈る気持であった。11月には政府高官や関係者多数の御来場を得て開幕式を行なうことが出来た。

#### ○おわりに

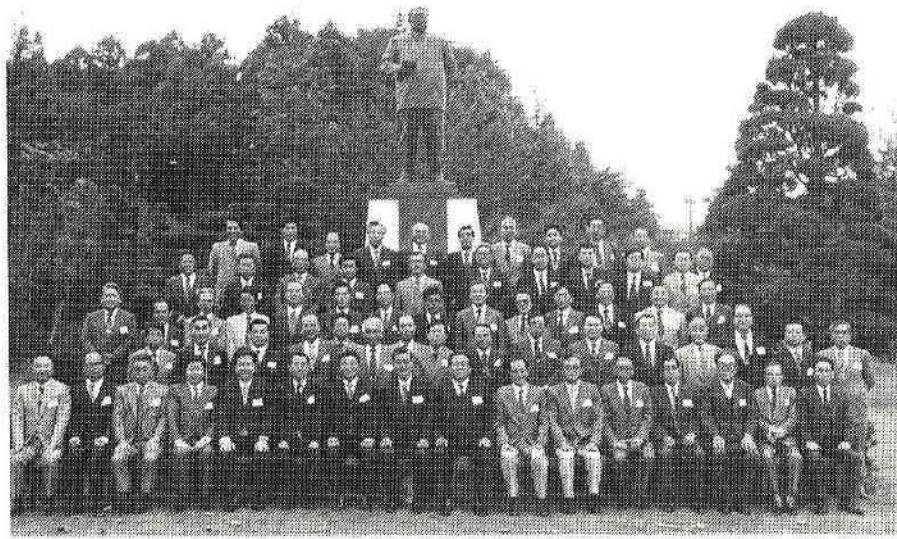
私としては2つの会社（工場）の創業期に立合うことの出来た幸せを喜んでいます。いずれの場合でも問題は有ります。これからも問題は出て来ます。問題に体当たりして生きた知恵が出ると思います。改善が生まれます。事実に基づいてP (PLAN) 、D (DO) 、C (CHECK) 、A (ACTION) をまわしたいものです。  
(機械工学科9回卒)

# 第3回「母校を訪ねる会」を開催

## 定着してきた行事を実りあるものへ

卒業してから20年経つたら母校を訪ねてみようとの主旨で始まったこの会は、56年11月にその第1回を開き、58年10月23日には、第3回「母校を訪ねる会」を工学部と校友会の共催で開きました。

今回の対象は8~10回生でしたが、折しも開催中の第33回北桜祭（学部祭）に一般市民も多数集まり、校



懇談会席上でのショート・スピーチの一節を再録してみると大略次のようになります。

廣川学部長；20年前にくらべれば学内が一段と整備



された。その喜びを卒業生全体で分かち合いたい。卒業後20年の皆さんには、現在の仕事に誇りをもって活動中と思う。そのエネルギーを我々の方にもぶつけてもらいたい。

武田校友会長；我々卒業生のうちで母校で教鞭をとっている人のうち、学位をとられた人が13人居り、そのうち4人が教授となっている。校友会としても卒業生としても誇りをもって工学部を推し進めていきたい。

内は賑やかな雰囲気に包まれていました。

三三五五に参会者が集まり、自由に学内の北桜祭を見学した後、玄関前で吹奏楽部のドリル演奏を見物しました。その後、会議室に移って懇談会を開き、学部長、校友会長の挨拶ののち、参会校友や恩師のスピーチがあり、学部紹介のスライドも映写され今昔の感に駆られました。

校庭で記念撮影、再び自由見学で資料室などを訪れ、20年前の想い出にふけりました。

夕方から会場を荒池の研修会館に移して懇親会を開き、参会校友・恩師・学部役職員・校友会役員が一体となって、楽しい一ときを過しました。

計画では次回は11・12回生が一応の対象者ですが、それ以外の方が出席しても良く、実りある行事に育てていきたいものです。なお、第3回の参会校友は38名で、このうち機械9回と電気9回は、前夜に同級会を開きました。

佐藤照雄（土10回）；卒業後初めて訪れた。在学中とまるっきり違っているのでおどろいている。同じ事務所に同窓生が18人居る。母校の発展のために役立ちたい。（郡山建設事務所次長）

高島 妻（建9回）；本宮の出身で、東京で事業をもっているが、なかなか大学には寄ることができなくなっていた。自分の出た大学に誇りをもって仕事をしていきたい。（大高建設㈱）

石川猛彦（機8回）；横浜で安全衛生に関する仕事をしているが、大学の教科の中に、安全工学や人間工学に関するものを入れてもらいたいと思っている。

（日産自動車㈱）

小島正也（機9回）；大学の4年間の郡山時代に、いろんなことを教えてもらったと思っている。地方で



大学生活を送ったことが人間を大きくしてくれたと思っている。(株)ミクロ発條)

阿部晃三(建10回)；下宿に行って、20年ぶりに東北弁を聞いてきた。私の経験から、工場や設計事務所で働いている人に、大学が門戸をひろげて技術相談をしてもらいたい。(株)山下設計)

小山恵司(機8回)；今の学生は明るい表情の人が多い。昨晩は下宿に泊めてもらった。このような会合をありがとうございます。(日本セメント株)

建部 鎮(電9回)；昨日から校内をゆっくり見せてもらった。我々の時の校舎が一つもないのが残念だ。我々はまずしさの中から創造性を教えられたように思う。(有)シヅメメディカル)

## 母校を訪ねる会に参加して

国分 義功

当時私は東北本線本宮駅から通学していた。安積永盛駅におりた学生は日大橋を渡りアカシヤの林を通り

## 校 友 短 信

### 土木工学科

◆但馬直高(10回卒、日本道路公団広島建設局浜田工事事務所長)

名神高速道路の建設に携って以来、20年余、高速道路の建設・管理を担当しています。現在、中国横断道の建設を進めています。58年7月山陰災害では貴重な体験をしました。

(58. 9. 24受)

◆面谷正美(10回卒、広島県土木部河川課)

滋賀県、広島県と2県にわたる公務員生活も20年になります。現在、御調ダムという治水ダムの建設に携っています。

(58. 9. 19受)

### 建築学科

◆村山 誠(14回卒、新潟県卷土本事務所)

アカシヤ写真部OB会の総会(58. 11. 19)の折には、工学部や工学部校友会の資料をいただき、ありがとうございました。その夜は思い出話しに花を咲かせ、写真で見る母校を自分の目でと、翌日は日曜日の校内をたずね、改めておどろき、感銘して帰途につきました。

(58. 11. 30受)

### 機械工学科

◆岡久 甫(10回卒、エクステリアーナカホ)

7月には高松で校友会長初めて多くの皆様に会うこと

抜け本造校舎へと通学していた。二十余年過ぎた今再び母校を訪ねて見ると大変な変貌である。校舎は本造から全て永久校舎に改築され昔のむんぼろ校舎の面影は残っていない。中央に高く聳える管理棟、左に図書館・右体育馆・記念館、そして各科の実験棟など近代建築の大キャンパスと化し、僅かに周囲の緑の自然環境だけが昔のままであった。

廣川工学部長より現在の概況をお聞きした。東北有数の理工系キャンパスに発展し、地元郡山市にとってもテクノポリス指定条件の一つに母校も大きな一端を担っていることを知り、卒業生の一人として誇りに感じた次第です。また校友との交歓も実り多いものがあった。各職場で中堅としてお互いに活躍しており情報交換等について一日大學によるほんとうに生きた学問をさせていただきました。

このように有意義な集いでありましたことに感謝申し上げます。(電気8回卒、郡山北工業高等学校)

[写真説明] 前ページ左：ドリル演奏。右：懇親会での学部長挨拶。

(校友会の事務局へのお便りや、連絡などから)  
(無断で掲載いたしました。ご了承下さい。)

ができ、学部の発展ぶりを知り、誠に楽しい時をすごさせて戴きました。益々のご発展を祈っております。

(58. 8. 29受)

◆三須 光(10回卒、三菱重工業株広島造船所)

卒業以来、製鉄機械の基本計画、設計、コスト見積及び損益、実行予算管理に携って22年目に入りました。その間、昭和44年9月には、インドドルガフールの特殊鋼プラントの保証技師として勤務中に右手をロールに巻き込み、その後は文字は左手で書いています。

(58. 9. 13受)

◆齊藤吉治(18回卒、松下電器株コンプレッサ事業部 生産技術課)

昭和53年1月末から、58年8月19日までのマレーシア勤務を終え、帰国しました。また、はりきっております。

(58. 10. 31受)

### 電気工学科

◆伊藤興一郎(9回卒、日本国有鉄道、本社、外務部)

アルゼンチン国鉄の電化工事のため、82年12月から84年6月まで、家族とともに、アルゼンチンにいる予定です。

(58. 12. 17受)

◆上崎省吾(9回卒、群馬大学工学部助教授)

現在、電磁波の種々の研究を行なっています。母校を訪ねる会には、講演会の依頼を受けていて出席できません。

(58. 9. 21受)

◆青木輝広（18回卒、株宝製作所スイッチ事業部営業部海外営業課）  
8月中旬、家族皆無事帰国致しました。シンガポー

ル滞在中は、校友会報を送っていただき、ありがとうございました。

(58. 9. 29受)

## 同窓会だより

### 建築7回同級会

朝倉 茂

建築7回生の第2回同級会を、58年9月3日に塩原のホテル神谷で開催。ゆっくり話し合うため1泊2日の日程。参加者は29名。大学から同級の小栗君が出席。

それぞれ話のタネを出し合って夜おそくまで語り尽した。なお、今後同級会の名称を34年卒業の意味を含めて「参志会」とし、次回は、2~3年後に、郡山で開催の予定。幹事を、池田孝伸・遠藤弘・佐藤哲男の3君にお願いした。  
(株)朝倉建築設計事務所



日本大学工学部建築学科第2回卒業生同窓会 58.9.3 郡山市塩原神谷

### 機械工学科第9回卒業生同級会

金森 亨

機械工学科第9回卒業生同級会は、工学部と校友会の共催で学部祭行事の一環として催された「母校を訪ねる会」の前日58年10月22日に青春の想い出多い開成公園に隣接する熱田屋旅館で開いた。偶然にも同期の電気工学科の同級会も同旅館で行なわれ、思わず旧交を温め楽しい一時を過した。

翌日には、母校を訪ね立派になった大学を視察し、活気あふれる学部祭に胸をおどらせた。更に、研修会館で懇親会が開かれ、懐しい諸先生のお姿を拝し、夕刻になり一同再会を約し、名残惜しみつつ散会した。  
(株)小松製作所小山工場



### 専門部電気1、2回合同同級会

専門部工科の電気科第1回卒（昭和25年）第2回卒（26年）の合同の同級会は、50年5月25日にその第1回目を郡山の駅前鈴伊で行ないました。参加者は廣川先生（現学部長）はじめ7人の恩師のご臨席と32人の

同級生が参集しました。その後、東京幹事と地元幹事の立案で、今年で6回目の開催となりました。この写真は58年11月19日の塩原温泉ホテルニュー塩原での会合の時のものです。次回は60年5月の予定です。

(専電1回卒、福島県立郡山北工業高等学校)



### 電気9回卒同級会

小沼 知久平

卒業から22年、学園が懐しく思い出される好時機に、母校を訪ねる会に御招待いただき、参加いたしました。お元気な諸先生方にお会いすると共に、記念館にて、20数年前を思い起し、当時の学生生活を久しぶりに回顧いたしました。また、充実したキャリアパスに驚き、誇らしく思うと同時に、益々の発展を祈ります。

58年10月22日、母校訪問の前日に、本間、橋本、渡辺、国分各先生に参加していただき、郡山市内熱田家にて2回目の同級会を開催しました。社会の中堅として、公私共に多忙の折、11名と参加者は少数でしたが楽しく飲み、語らいました。

次回は、より多くの参加を得て、盛大に開催出来ることを望みます。  
(福島県立喜多方工業高等学校)



### 工化6回同級会、バンザイ

中山 達雄 館川 裕

「同級会を開くぞ！」の一言。意見は一致。25周年の歳月は、先づ名簿の改訂から。級友全員の確認に数週間。工化第6回生16人中、11名から「参加待達し。妻同伴！」の便り。1人は当日（昭和58年8月13日）宴だけなわの頃、南国宮崎からこの伊豆高原まで電話で参加。話し方と笑い声に特徴のある桂木君。出席者

全員が受話器の奪い合い。中山が持参した昔の工学祭の写真が青春の日々を投影し、「瘦せてたな！」細かったなあ！……」皆んな童顔の爛氣に燃えた顔、顔。今は一番頭髪の薄い坂井君も白衣でコラスを披露した工学祭当時とは大違い。威風堂々と、海外へも東奔西走の国際人だ。石部君は縁起物店主。再会の瞬間「お前らに会う為、14万円の腕時計買って、身形(みなり)を整えて来ただで！」30周年の同級会には、一人一人に大判振る舞いしたるで！」には当時以上の重厚さを感じた。頼もしさでは、鉢君は停年後も同じ職場に居坐り、入れ歯も変えていつも吾々の羅針盤役、笑顔で何んでも聞いてくれ許してくれるハバの広さ。池内君は、飲んで崩れず、酒の酔い方、醒め方を知っている常識派。

一番遠い兵庫からの小田上君は、垢抜け、切磋琢磨の光と艶があった。30周年の時は、喜んで幹事を引受けてくれるとか？、次回は大阪かな？。角口君は日常乗用車勤務。この日は8人乗りのワゴンで吾々を乗せ往復安全運転に徹してくれた。この会のために、途中の飲み物までプランを練ってくれた苦労人でもある。そして最後は、東名高速のバス停で待つ級友の目の前を、白いティッシュペーパーをハンカチ代りに素通りし、心配を笑いで4時間の道程を退屈させまいと気を使い、夜はぐっすり。早朝5時に鉢君に鼻をつままれ起こされた館川。こんな初夏のクラス会でした。

中山（富士興産㈱） 館川（シェル興産㈱）



## 東桜会ゴルフクラブの歩みと私

東海支部長 平野 卓

過ぐる昭和52年6月、支部総会で発足の決った、わが東海支部のゴルフクラブも、第1回コンペを東名古屋CCで開催して以来、14回になりました。

折角の顔合せの機会故、一目こつきりではと言う意見もあって、第5回からは泊りがけになりました。藤原正臣氏（土6回）のお世話で、静岡に遠征すること6回、また岐阜で3回と、県内外で1泊2日が恒例になっています。いずれの会場でも、お互に年令を忘れ、飲みそして語り続けてきました。

この夏も、第14回が静岡の浜名湖CCで、気温35℃の酷暑の中で熱戦が展開されました。炎暑にもめげずに若さを發揮した北川義展氏（土18回）が優勝の栄に浴しました。余りの暑さに全員バテ気味になり、通常

の1.5ラウンドを1.0ラウンドに短縮し、昼食兼表彰パーティー後、ゴルフ場のロッヂに集合、麻雀大会で暑気拂いをと、楽しい一日を過しました。

卒業以来、30年がもう直ぐ目の前になり、自分では若い若いと思っている間に、すでに五十路（いそじ）を越え、子供達も手を離れ、再び妻と二人っきりの時代になりました。最近は、どの会合に出ても、いつのコンペに参加しても、後輩達から年寄扱いされるようになりました。まだまだ、50代は鼻タレ小僧と言われる程平均寿命が伸びた昨今故、若い連中と遊ぶことも回春剤と考え、これからも大いに楽しくやっていきたいと思う今日この頃です。

この4月、27年間の公務員（建設省）生活を終り、民間企業に転じました。波風の多い、厳しい社会ですが、思いを新たに専心努力する心算ですので、今後ともよろしくご厚誼の程をお願い申し上げます。

なお、東桜会コンペの過去14回の優勝、2位、3位のメンバーを次に記載しておきます。

平野卓（土3）、緑川秀人（機3）、荒井勝雄（土5）、河野叶（土6）、藤原正臣（土6）、渡辺博之（土6）、重田英生（電6）、平河内誠（土8）、藤田協石（土12）、渡辺邦臣（土12）、鈴木健夫（土13）、石橋浩（土15）、古川恵一（土15）、丹羽真道（機15）、浅田良孝（土16）、北川義展（土18）、村山宗昭（機18）、下里正美（土19）

（土木3回卒、東京エンジニアリング㈱コンサル

タント事業部名古屋駐在技師長）

（58. 9. 14受）

## 日本大学工学部校友会あだたら会結成

相原 達郎

本会は校友の和を秀峰安達太良の据野のように広げようと「日本大学工学部校友会あだたら会」と名付け、福島県の中央部二本松市、安達町、岩代町、東和町の一市三町に在住、又は勤務しているか、出身地を有する校友を対象に58年8月28日に結成しました。

会員は約100名であるが、校友会名簿よりピックアップした名簿のために多少不備がありました。通知が届かない校友がおられましたら事務局まで御一報願います。

本会の事業は親睦会を中心で、年2回、夏に総会、冬に忘年会を開催する事が決定されており、本年の忘年会を58年12月26日に開き、1ケタの卒業者から今春卒業の若者まで痛飲し同じ校歌を歌い大いに語り合いました。

現在他学部卒の校友からの入会希望が出ているため早期実現を計るべく思慮しているところです。

初代会長は土木1回卒の齊藤徳蔵氏、事務局は事務局長土木19回卒丹井田正廣氏宅

（土木24回卒）

# 英國の夏と若者たち

村田吉晴

ユーストン駅から汽車に乗って、一時間一寸でコベントリーに着く、この街は中部工業都市バーミンガムの近郊で、ここが私に勉学の場を提供してくれるであろう英語学校のある所です。道を訪ねながらたどりついた所は、或る教会のそばにあって静寂そのものの環境の中に発見する事ができたわけです。と申しますと近くにはショッピング街もあれば、市営のスポーツセンターもあるといった具合で、学生には好都合な場所です。様子を見てると黒人風のアフリカあたりの学生が多く、何となく抵抗を感じ校舎に入るのを一寸ためらつたが、そこは心臓の強さ、皮肉を決めて入校し、無事ハーハーテストや面接を済ませたという次第!!

一緒に入校した中にザンビアの青年達も交っていたのに注目した。夕方までみっちりしほられ頭が痛い。下宿も決まり、通学定期も買って学生生活に逆もどりした様な気分だった。今日は英國中部にあるストラットフォード、オックスフォード方面へのバス旅行である。ストラットフォードは古くからあるマーケットタウンであるが、シェークスピアが生まれるにいたって、一躍有名になった所で、街は白い壁と黒い木骨のコントラストがひとしお印象的である。これなどは中世の雰囲気がじみ出でていて美しく眼に映る。シェークスピアの生家や彼の妻、アン・ハサウエイが住んでいたとい



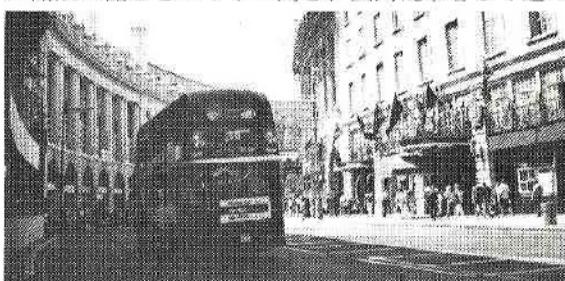
シェークスピア夫人の生家

う茅葺ではあるが小奇麗な農家、そして彼が晩年、功成り名を遂げてから住んでいた家などを見て歩いた。バスはテームズの上流にあるオックスフォードに向った。ご承知の通り、オックスフォードは英國の学都で昔から幾多の指導的人物を世に送り出してきた街であるが、一万人にも及ぶ学生が勉学している総合大学で、含まれる各カレッジは独立しながら、自治共同体として運営されている。このあたり日本の大学運営と相違する点で異色を感じる。オックスフォード大学という建物はなく、従つて学生は各カレッジに自由に出入りして受講できる組織になっている。

ロンドンに帰り、下宿を捜す。テニスで有名なウインブルドンパークに決めたから、環境としては申し分のない所であった。今年の夏はとりわけ異常気象のせいだろうか、地中海のリゾート地並の高温にみまわれ非常に暑かった。陽気のせいで避暑でもあるまいが、各地のパブは大変な賑わいだった。開業以来の記録的売上

げがあったとか、赤ら顔の親爺が満足気に話していたのが目に浮ぶ。夜の9時を過ぎても空の青さは衰える気配を見せず、ガーデンつきの芝生に、若者たちのグループが気ままに座ったり横たわったりして、ビター(ビール)のジョッキを傾けている姿があちこちで見られる。一般に就職するにはOレベルのテスト(日本の高校一年修了程度)で最低5科目にパスする事が条件となっているのだが、実際には1科目以上、つまり複数科目に合格した学生数は、世代全体の半分しかいないとか。

この様に多数の学生は職に付くに必要な5科目のOレベルを通過せずに社会に出てしまう者が多い実情のことである。なお大学に進むに必要な3科目Aレベルの試験に合格する学生は、全体の10%程度でドロップアウトした者や不合格者にとっては、Oレベル以外に彼等の資格はなく、結局は就職の道を塞がれてしまう結果になってしまって、16才の少年が、義務教育を済ましたが、就職はできないという始末で社会に投げ出されてしまうのだ。それくらい英國の経済は沈滞不況にあえいでいる。一般的に英國の労働者階級の子供達は、学生のうちは親から小遣いをもらっているが、中等教育を終えて高校に進学しない場合、自分で生計を立て、さらに両親と同居して居る場合は少額ながら維持費を彼らの両親に定期的に渡すという習慣がある。学校を卒業した彼らは一人の成人した者として扱われ、その様な状況を勿論本人も望んでいるわけである。日本の様に大学まで出してもらいながら、尚かつ車だけ小遣だ!! あげくのはてに結婚式一、と甘えられる若者とは大違いだ!! 地図を片手に、ゆっくり見て歩いたのが博物館だった。一方バスを利用したりして東はドゥバー海峡、西はウエルズ、南はラウンドエンド、北は怪獣の住むというネス湖と、国内視察をして廻った。



リージェント通り

80余日の滞在で曲りなりにも初級英語を卒業する事ができたのかも知れません。

一応目的は達成でき、懐しの国、日本に帰る日が近づいた。変なものでここまでくると早く帰りたい様な、もう少し滞在したい様な複雑な気持が涌いてくる。特に就寝時などあれこれ走馬燈のように色々な像がしきりに脳裡をかすめて不眠症を恐れるほどだった。

(土木工学科12回卒 工学部専任講師)

# CAMPUS

## mini MEMO

### ◆遊佐先生が定年退職

遊佐祥郎（機）昭和24年4月1日～58年11月12日

長い間のご眞陶に対して、会員一同、感謝いたしたいものです。

### ◆江崎伸市先生御逝去

元建築学科の江崎伸市先生は、昭和58年11月27日、東京の自宅で逝去されました。享年91才でした。

先生は昭和24年3月から、41年1月まで在職され、その間、28年から40年まで第二工学部次長として、今日の工学部の基礎つくりに尽力されました。先生のご冥福をお祈り致します。

### ◆第24回学術研究報告会開催

この報告会は58年12月10日に日本大学工学部で行なわれた。発表件数は131件であった。

工学部の教員や大学院生、研究生による発表が主であったが、当校友会会員で、現在、工学部とは関係のない職場の人による発表は、次の6件であった。

「微生物を使用した（嫌気一好気活性汚泥法）脱リン」

川崎市役所 鈴木 熙（土15回卒）

「浜松市曇ヶ丘浄化センターにおける下水の高度処理技術と事例」

浜松市役所 原田良誠（機15回卒）

「雨水流出抑制策の検討」

郡山市役所 寺山喜信（土23回卒）

「非碎波のうち上げ高、越波量と計画天端高について」

日大生産工学部 遠藤茂勝（土14回卒）

「細骨材とセメント混合物の造粒に及ぼす表面水量及び練り混ぜ順序の影響」

金沢工大 浦 恵親（建18回卒）

「状態方程式による二酸化炭素を含む多成分系の気液平衡の推算」

東京都立大大学院 田中裕之（化29回卒）

この学術研究報告会は、毎年12月頃に行なわれており、一般校友の参加も可能であり、それらの詳細は、校友会事務局に問い合わせて下さい。

### ◆日大体育大会で学生4位

昭和58年度の日本大学体育大会は10月に各地で行なわれ、総合成績で工学部は学生の部4位、教職員の部5位となった。種目別には次の通り。

学生 卓球、軟式テニス、サッカー 2位

軟式野球 3位

教職員 テニス 優勝 (V5)

ソフトボール 3位

### ◆工学部は4,861名

日本大学学報第301号（昭和58年10月31日）によると、58年10月1日現在の在籍学生数（学部の部）は次のようになっており、工学部の学生数は男が4,808名、女が53名の合計4,861名である。

### ◆工学部の教授陣の紹介

日本大学本部入試事務室では、59年度学生募集のための進学ガイドを発行（500円）したが、その冊子の中に工学部の教授陣を紹介しているカコミがあるので、それを再録しました。

## 教授陣の紹介



工学部は「教育は人なり。」を実践する  
学部だけに量・質共に多彩な教授陣を誇  
っている。現在の陣容は専任教授陣四十  
九名、同助教授三十三名、講師六十一  
名、助手・副手が二十五名。これに非  
常勤の先生を加える総勢二百二十五名。  
これは文部省の基準をはるかに上回る數  
字である。  
その中から何人かを紹介すると、まず  
廣川友雄学部長は物理学が専門で結晶塑  
性の権威。水理工学の木村喜代治教授は  
バングラデシュの治水計画を担当した。  
森芳信教授は土質工学の権威。大浜嘉  
彦教授は本文でも紹介したボリマーコン  
クリートの開発者では国際的にも知られ  
ている。佐藤平教授は建築計画、荒井昌  
昭教授は東海道新幹線建設の際の震動研

究のメンバー。塙本孝一講師は火災研究  
の権威者。谷川正己教授は明治の名建築、  
旧帝国ホテル本館を建てたライトの研究  
者。石井勇五郎教授は非破壊検査委員会会  
長をつとめられ、成田空港へ燃料を送るバ  
イブ検査の責任者でもあった。大平五郎教  
授は金属研究の世界的権威で、金属学会会  
長をつとめた。青木弘教授は機械学会副会  
長をつとめられて潤滑摩耗の専門家。加  
藤勝洋教授は電話・鉄電の権威として知ら  
れる。藤木正也教授は自動販売機のミスを  
調査する確率理論の権威者。片山将道教  
授は有機織維、塙川孝信教授は学術会議  
のメンバーで第5福島丸から日本で初め  
て死の灰を検出した。後藤尚教授と菊池  
光子教授は共に本学部のOBで、後藤教  
授は無機化学、菊池教授は香料の研究が  
専門である。

## 噂のページ

### ◆久高将栄君（土4回卒）

58年4月1日付で、沖縄県土木建築部長に就任され  
(事務局)

昭和59年3月1日

日本大学工学部校友会

会員各位 殿

日本大学工学部校友会

会長 武田仁幸

## 昭和59年度総会通知

校友の皆様には、各職域において益々御健斗のこととお慶び申し上げます。

さて本会規則第28条により、日本大学工学部校友会昭和59年度総会を下記により開催いたしますので、先輩、後輩お誘いあわせの上多数御出席くださるよう御案内申し上げます。

記

1. 日時 昭和59年4月28日(土) 午後2時
2. 場所 日本大学郡山研修会館(郡山市愛宕町2-22) TEL(0249)23-4193
3. 議題 昭和58年度会務及び決算報告、昭和59年度事業計画及び予算(案)審議、役員選出その他
4. その他
  - (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知といたしますのでご了承ねがいます。
  - (2) 総会終了後、引き続き同所において懇親会を予定しております。
  - (3) 研修会館宿泊希望の方は5日前までに母校庶務課(TEL0249-44-1300代)に申込んでください。

### 卒業後の各種証明書について

工学部教務課

- 手数料 成績証明書 200円  
卒業証明書 200円  
その他は問い合わせ下さい。  
健康診断書は発行しません。
- 申込方法 直接窓口にくるか、郵便で申込む。  
電話では受け付けません。
- 必要事項 手数料・返信用郵送料(いずれも切手可)  
学科・氏名・本籍・生年月日・入学年月日・  
卒業年月日・現住所

### [事務局便り]

- 会報を年2回発行してお届けしておりますが、転居先不明等でもどってくるのが大分あります。住所変更の折は、忘れずに、事務局までご一報下さい。
- 工学部校友会員名簿(22,156名)を57年10月に発行しました。残部が少しさりますので、希望者には1部2,500円(郵送がいらない場合は2,000円)で配布しております。至急申し込んで下さい。
- 地区ごとや、クラブOBなどの集まりを催すときは、事務局に事前に連絡して下さい。名簿等をお送りいたします。
- 校友会報に掲載する広告について、会員の企業からの協力をお願いします。くわしくは、事務局に連絡して下さい。
- 第4回「母校を訪ねる会」は10月下旬に行なう予定です。11・12回の卒業生を対象としますが、それ以外の方も参加されて結構です。その折は事前連絡をお願いします。

### 北海道支部

支部長 長谷川清廣(土14回)丸松館建設㈱  
事務局長 松久房夫(土19回)札幌市下水道局

### 東京支部

支部長 古村利夫(土3回)古村建設㈱

### 東海支部

支部長 平野卓(土3回)東京エンジニアリング㈱  
名古屋支社  
事務局長 河野叶(土6回)福徳建設㈱

### 九州支部

支部長 矢俣敏之(建8回)株大林組福岡支店  
事務局長 陶山順一(建15回)株陶山建設

### 校友会報第43号

発行所 日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定字中河原1

郵便番号 979-66

電話番号 郡山(0249)44-1327

振替口座番号 郡山5-1990

発行日 昭和59年3月1日

発行者代表 会長 武田仁幸

編集者代表 事務局長 佐藤光正